

名前 _____

基本メニュー (☆☆☆) …必ずやりましょう。

	チェック
① 週テストの復習用を解く	
② 宿題用テキストの改題(授業で扱った問題)	
③ 宿題用テキストの基本問題を解く	

応用メニュー (☆☆) …基本メニューが全て終わって、余裕があればやりましょう。

	チェック
① 宿題用テキストの改題(授業で扱っていない問題)	

発展メニュー (☆) …チャレンジしたい人はやりましょう。

	チェック
① 宿題用テキストの入試問題に挑戦！！	

担当より一言

今回は、ものの溶け方(2)について学習しました。

今回は、濃さと溶解度の計算が学習の中心でした。

濃さの計算については、考え方は算数の食塩水の問題と変わりません。算数同様ビーカー図や面積図を書いて考える習慣を身につけましょう。算数と少し違うところは、全体の重さや溶けているものの重さが小数になることが多いという点です。算数では通分のイメージで解くことが多いですが、理科では×100で濃さを求めるようにしていきましょう。

溶解度の計算については、表やグラフからその温度のときに水100gに対して何gまで溶けるのか、という基準を作り、その基準の何倍かを考えていくことがポイントです。基準の何倍か、という考え方は金属の燃焼の計算と同じ手順です。まずは基準となる数字を並べて書くことがポイントなので、頭の中だけで処理しようとせず丁寧に書くようにしてください。

今回は計算問題が中心の単元だったので、宿題がいつもとは異なっています。まずは授業で扱った問題の改題で解き方の定着を図りましょう。

授業用テキストの問題の次のページにそれぞれの解説が載っていますので、解けなかった問題については授業用の解説を確認し、同じ手順で解いてみてください。そこで解き方の手順を押さえた上で、宿題の基本問題に進んでください。余裕があれば入試問題に挑戦！！にも取り組んでみましょう。